

平成 30 年度 日本薬剤師会薬局実務実習担当者会議 報告

報告者：柴崎 崇

日 時：平成 30 年 6 月 13 日(日)12:30～16:30

場 所：慶應義塾大学芝共立キャンパス マルチメディア講堂

参加者：前田淳彦副会長 柴崎崇理事

1. 開会挨拶

日本薬剤師会常務理事 永田 泰造

2. 薬局実務実習の充実に向けて～文部科学省より

文部科学省 高等教育局 医学教育課 薬学教育専門官 福島 哉史

3. 薬局実務実習の充実に向けて～厚生労働省より

厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 課長補佐 安川 孝志

4. 「薬局実務実習指導の手引き 2018 年版改訂モデル・コアカリキュラム対応」を用いた実習の進め方について

日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員長 山田 純一

委員 片山 周也

同 伊藤 憲一郎

5. 改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習に向けて～今後取り組むべき事項～

日本薬剤師会 常務理事 吉田 力久

6. 薬学実務実習に関わる最近の動向並びに受入施設と大学との連携について

日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員 鈴木 匡

(薬学実務実習に関する連絡会議副座長)

7. 質疑応答

進行：日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員長 山田 純一

副委員長 三宅 圭一

8. 各地区での今後の対応について (8 地区単位での協議)

進行：同上

9. 閉会挨拶

日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

4 では改訂モデルコアカリキュラムを先行導入するための進め方について説明があった。OBE では概略評価を行うため指導者が「責任ある主観」で評価を行うことで実習生の成長を評価するという事になっている。先日刊行した日薬版「薬局実務実習の手引き 2018 年版」は連絡会議が例示した概略評価と整合性が取れており、これに沿った指導・評価をすることで概略評価が可能になるとのことだった。また、「薬局実務実習の手引き 2018 年版」

5 では今後取り組むべき事項について説明があった。県薬として行うことは、①手引きを受け入れ施設に導入してもらう、②手引きの使い方や改訂モデルコアについて周知する、③先行導入実習における問題点を収集して大学と日薬へ提示する、の 3 点であり、2 期開始前に行うよう指示があった。

6 では具体的な連携と評価方法について説明があった。

8 では東北地区の担当者での協議があり、2 期からの先行導入に向けて調整機構及び各大学からも案内を出し薬剤師会として伝達講習を行うことになった。

## 所感

改訂コアカリキュラムに基づく実務実習のスタートまで一年を切っており、先行導入してみる機会はあと 2 回しかない。しかも先行導入実施施設のアンケートを基に更に改善していくことを考えると、8 月から始まる 2 期で多くの施設に先行導入実習をしてもらう必要がある。

そのためには先行導入してもらうための伝達講習が必要だが、時間もない上に役員改選時期のため、全指導薬剤師に伝達するのは厳しいように感じる。東北地区での協議で調整機構・大学と協力して伝達を行う事が確認できたので、せめて 2 期に受け入れる薬局の指導薬剤師だけにでも 7 月中に伝達講習をしなければならないと思う。